

辛立文化センター館だより 2012 臨時号

人権ゆかりの史跡フィールドワーク

夏休みに、さぬき市内の小・中・高等学校と香川東部養護学校計 12 校 189 名が辛立人権ゆかりの地フィールドワークをしました。教育委員会社会教育指導員六車功と文化センター館長西尾清弘が案内しました。地域には、460 年前の 1499 (明応 8) 年に京都から公家の藤原為信が当地に移り住み、三宅を姓として現在に至っていること。三宅氏の家の屋号が分岐といい長尾西・名地区の用水に関わっていたこと、所蔵としての役割があったことを学びました。

また、地域の子どもが元気で仲良くできるようにとの願いで、榎ノ木神社の子ども相撲やすばき寿司など伝統行事があることなど、地域の人権にかかわることを勉強しました。この地域では終戦後、入倉完三郎地元町会議員の努力と住民の理解を得て、地区と地区外の自治会を統合して一つの自治会を創ることが出来ました。辛立自治会をはじめ辛立地区の住民が仲良く人権文化を伝承してきたことを伝え、人権・同和問題に対する理解と認識を深めました。



人権ゆかりの史跡フィールドワーク状況

長尾中学校夏期学習会開く

夏休みに、長尾中学生の夏期学習会が行われました。参加者は、20 日間で 713 名の多くの生徒が熱心に勉強しました。宿題は、もちろんですが、補習授業や 3 年生の高校進学に関わる入試について勉強しました。勉強だけでなく、人を幸せにする人権についても学習して、将来は社会に役立つ人たちになって欲しいと念願致しています。



夏期学習会風景

「夏のつどい」開催

第 13 回辛立文化センター「夏のつどい」が 9 月 1 日(土) 開催されました。当日は、来場者が 900 人余りに上り、さぬき市大山茂樹市長が最後まで参加して、子どものビンゴゲーム大会のくじを引いて頂きました。子どもたちからも喜ばれ、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

冬にも「冬のつどい」を開催して、人権文化の発信基地として、子供や青年、多くの市民の交流を図っていきたいと思います。正面玄関前の石碑に「よき日のために」と書かれてあるように人生の悲しみやいろんな悩みを相談し、「ここにきてよかった」と、市民に愛され親しみがもてる辛立文化センターを目指しています。



恒例のビンゴゲーム